

## 国際会議等開催準備助成報告書

### 第7回塑性加工国際会議 (7<sup>th</sup> ICTP)

### The 7<sup>th</sup> International Conference on Technology of Plasticity

社団法人日本塑性加工学会  
代表 町田輝史

(平成12年度国際会議等開催準備助成 AF-2000028)

キーワード：塑性加工、材料、加工機械、加工プロセス、型、工具

開催日時：2002年10月27日～11月1日 開催場所：パシフィコ横浜国際会議センター

#### 1. はじめに

日本塑性加工学会の提唱により始められた塑性加工国際会議 (ICTP) は、1984年東京に於いて第1回会議が開催された。以後3年毎に、ドイツ (シュトゥットガルト)、京都、中国 (北京)、米国 (コロンバス)、ドイツ (ニュルンベルク) で開催され、現在では塑性加工技術・機械・製品を包括的に扱う世界唯一の国際会議に成長している。1999年ニュルンベルクにて開催された第6回会議において、第7回会議を2002年に横浜で開催することとなり、木内委員長のもとで組織委員会を結成して準備を進め、10月27日より11月1日までの日程で同会議を開催するに至った。

#### 2. 組織委員会による準備経過

2000年7月より第1回準備委員会、引き続き第2回準備委員会を開催し、会議開催に至るまでのマクロスケジュール、全体予算原案、1<sup>st</sup> Circular の下案、組織および委員会の構成などについて予備的議論を行った後、2000年末、組織委員会を立ち上げた。メンバーは委員長以下塑性加工各分野より選出された53名である。

組織委員会の開催経過は以下の通りである。

- 第1回組織委員会 (2001年2月)
- 第2回組織委員会 (2001年11月)
- 第3回組織委員会 (2002年2月)
- 第4回組織委員会 (2002年6月)
- 第5回組織委員会 (2002年9月)

組織委員会の下には、広報、論文、会場、会食、見学、等のワーキンググループを設け、サーキュラーの作成および配布、各種広報活動、アブストラクトや論文原稿の処理、プログラムの編成、プロシーディングスの作成、会場の予約と設営、パンケットや昼食の準備、見学会のプランニング、見学依頼先

との折衝および具体的なスケジュールリングなど、それぞれ必要事項について鋭意準備を進めた。

この他、第7回会議事務局を木内研究室および東大生研柳本研究室に設営し、アブストラクトや論文原稿の受け取りおよび審査手続きの事務的処理、参加者との連絡、参加者の来日手続きに関する各種の支援、会計事務等の業務を行った。

なお、会議開催の直前には、会食、会場などのWGごとの会議を随時開催し、準備の万全を期した。その間、事務局も入金の確認、参加費払込の督促、受付用の各種書類および名札の作成、会議参加者に配布するBrochureの作成などを行った。

#### 3. 論文審査委員会

組織委員会とは別に論文審査委員会が組織され、国外、国内から各分野の指導的研究者の協力を求め、発表申し込みを受けた論文について、アブストラクトによる一次審査、論文原稿に対する二次審査を行った。これらの審査を通して適正と判断された論文のみをプログラムに収め、また、プロシーディングスへの掲載を認めた。発表された論文の質については、若干のバラツキは認められるものの、概ね許容できる水準に達していると考えられる。

#### 4. 会議の開催経過

2002年10月27日 (日) 17:00 から7<sup>th</sup>ICTP Casual Reception が開催され、会議が開始された。翌日9:00よりOpening Sessionを行い、10:30より、5室に分かれて分科会 (論文発表セッション) が始まった。なお、7<sup>th</sup>ICTPの分科会日程は2002年10月31日 (木) までの4日間とした。前回ニュルンベルクでの6<sup>th</sup>ICTPより1日長い日程となったが、その理由は、1件当たりの講演時間を25分とし、これまでの会議よりも長くしたこと、並行して行われる分科会 (セッション) 数を5に縮

減したことによる。開催期間中の分科会の運営は滞りなく行われたが、これは会場担当 WG に所属した組織委員の尽力によるものである。なお、11月1日(金)には合計7コースに分かれてテクニカルツアーを、トヨタ自動車(コース1)、ホンダ(コース2)、東洋製罐・日産自動車(コース3)、新日鐵君津・川鉄千葉(コース4)、アマダ・日立製作所(コース5)、アイダエンジニアリング・菊池プレス(コース6)、ニチダイ(コース7)で開催し、合計63名の参加があった。加えて、10月28日(月)には鎌倉、10月30日(水)には東京周遊のレディースプログラムを実施した。

Cold Forging	11
Forging General	6
Forging Simulation	8
Hot Forging	9
Prof. Kudo's Memorial Session	13
Super Plasticity	4
Materials	13
Powder Compaction, Sintering Forming	7
Composites	4
Continuous Casting	4
Mushy/Semi-solid Forming, Injection Molding	4
Sheet Rolling	8
Rod, Bar, Wire and Shape Rolling	6
Microstructure Evolution in Rolling	3
Tube Rolling	4
Ring Rolling	3
Simulation	12
Theory of Plasticity	4
Crystal Plasticity	4
Strength, Failure and Fracture	9
Prof. Sowerby's Memorial Session	5
Hydroforming of Tube	9
Roll Forming and Tube Forming	4
Drawing	3
Extrusion	13
Hydroforming and Lazerforming of Sheet	9
Sheet Forming Simulation	8
Deep Drawing	11
Bending, Straightening	6
Shearing, Blanking, Punching and Cutting	6
Incremental Forming	6
Surface	4
Tribology	12
ICEM Special Session	10
Joining	3
Automotive Parts, Components	5
Micro Forming	5
Rotary Forming	6
CAE, Knowledge Base	4
Machines, Tools	4
Poster Session	27
Total	296

表1. 分野別発表論文数

## 5. 講演論文

講演件数は、一般講演が296件、基調講演1件(鉄鋼協会会長：牧 京都大学教授)、特別講演が2件(JSTP国際賞を受賞した近藤教授と Geiger 教授)であり、一般講演の分野別発表件数は表1に示す通りである。表2は国別講演件数と参加者数を集計した結果である。これらの中には複数件講演した著者があり、これを除外した参加者総数は399名、国数は29カ国であった。参加者数、参加国数、講演件数は、いずれも過去6回行われたICTPの平均的な数値をやや上回っており、7th ICTPが従来に増して盛会であったとすることができる。

## 6. 謝辞

7th ICTPの開催に当たっては、科学研究費補助金を受けた。また、天田金属加工機械技術振興財団より国際会議等開催準備助成を受け、更に横浜市よりも助成をいただいた。またテクニカルツアーの開催に当たっては多数の企業にご協力いただいている。関係各位に深く感謝申し上げる次第である。

Country	Number of Applied Presentation	Participants without Presentation
Austraria	2	0
Austria	1	0
Belgium	1	0
Canada	1	0
Croatia	3	0
Czech Republic	2	0
Denmark	3	0
Egypt	1	0
Finland	2	0
France	9	0
Germany	37	3
Hungary	3	1
India	0	1
Iran	8	0
Israel	1	1
Italy	8	3
Japan	134	106
Korea	12	9
P.R. China	27	4
Poland	6	1
Portgual	1	0
Romania	1	0
Russia	3	0
Taiwan	5	0
Thailand	2	1
The Netherlands	1	1
UK	8	1
Ukraine	2	0
USA	9	1
Vietnam	1	1
Yugoslavia	2	0
Total	296	134

表2. 国別発表論文数/参加者数